

令和 7 年度使用中学校用
教科用図書調査実施結果一覧表

令和 6 年 7 月 1 8 日 (木)
津市教科用図書調査研究委員会

報告順

8月23日(金)

保健体育(4者・3学年分・4冊)

国語(4者・3学年分)

技術(3者・3冊)、家庭(3者・3冊)

社会 地理(4者)、歴史(9者)、公民(6者)、地図(2者)

8月26日(月)

数学(7者・3学年分)

書写(4者・3学年分・4冊)

英語(6者・3学年分)

理科(5者・3学年分)

美術(3者・3学年分)

音楽一般(2者・3学年分)、器楽(2者・2冊)

道徳(7者・3学年分)

国語

教科名〔 国語 〕

調査項目		教科書の名称 発行者の番号・略称											
		新しい国語 2・東書			現代の国語 15・三省堂			伝え合う言葉 中学国語 17・教出			国語 38・光村		
		評価	理由		評価	理由		評価	理由		評価	理由	
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・「てびき」に話し合いや伝えるという活動が組み込まれており、主体的・対話的で深い学びにつながっている。 ・「書くこと」の領域でも、対話を通しての学びの場が設定されている。 ・「言葉の力」を教材とリンクして活用することで深い学びにつながる。		◎	・「思考の方法」「学びの道しるべ」「読み方を学ぼう」など、対話を通して読み深めるための手立てが示されている。 ・「読み方を学ぼう」一覧では、読みの「こつ」を確認することができる。 ・「話す・聞くこと」の単元に話し合いの発言例があり、わかりやすい。 ・「書くこと」の単元においても対話を通して学びを深める場が設定されており、主体的・対話的で深い学びが意識されるようになっている。また、「学びを広げる」では、単元の学習を深めることができる。		○	・「学びナビ」で学習のポイントが示され、「みちしるべ」で学習過程が示されている。その「みちしるべ」の中で対話的な学習活動が組まれている。 ・「話す・聞くこと」や「書くこと」の分野においても同様に課題解決に取り組みやすい構造になっている。		◎	・巻頭の「学習の見通しをもとう」でどのような力をつけるのかを学習者に示している。 ・「学びの扉」で学習の流れを示し、「学習のカギ」で課題解決力をつけるための学習のポイントを示している。 ・学習の流れの中に対話的に学習が深められる活動（「話し合おう」「伝え合おう」）が組み込まれている。 ・「思考の地図」は、様々な場面で活用できるようにまとめられている。	
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	○	・「読むこと」では、「てびき」や「情報と論理の学び」によって、論理的思考力の育成が図られている。 ・「話すこと・聞くこと」では、「聞く系統」「話す系統」「話し合う系統」と各学年系統立った学びが可能である。 ・「書くこと」では、創作、レポート、意見文、随筆・物語・手紙等の豊富な内容で学べる。 ・「広がる言葉」「言葉の力」は言語能力を高める一助にできる。文法は、見やすく理解を助けることができ、解説が丁寧である。		○	・「読むこと」では、「学びの道しるべ」や「思考の方法」等で論理的思考力を育成する手立てが示されている。 ・「話すこと・聞くこと」では、各学年グループディスカッション系列、スピーチ系列、読書活動系列、総合系列で活動が配置されている。 ・「書くこと」ではレポート系列、情報系列、意見文系列、総合系列等、豊富に準備されている。 ・「語彙を豊かに」のコーナーが教材ごとに配置されており、言語能力を高めるための一助になっている。		○	・「読むこと」では、「学びナビ」で学習のポイントを明確にしている。 ・「話す・聞くこと」分野で、「学びナビ」でポイントを示し、「学習活動の流れ」では学習のポイントに従って進められるようになっている。 ・各学年とも「話す・聞くこと」分野でコラム教材が配置されており、対話的な学習の導入として工夫が感じられる。		○	・「読むこと」についてはもちろんのこと、話す・聞くことにおいても「学習の流れ」が提示され、学習のポイントは「学びのカギ」で示される形になっており、学習者には分かりやすい。＜書くこと＞においても同様である。 ・「言の葉ポケット」は苦手な生徒に有効な支援であると感じられる。巻末にある「語彙ブック」を利用することで言語能力を高めることが可能である。中でも、3系統に整理された「描写」「言動」「思考」の言葉の紹介は言語能力を高めることに有用である。	
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・各学年とも「情報と論理の学び」が、＜書くこと＞活動や＜話すこと＞に活動につながっている。 ・情報収集にインターネットの利用を紹介している。 ・「デジタルコンテンツ一覧」にあるように情報活用能力の育成に関する分野においてICTの活用が組み込まれている。		○	・各学年の「マンガ情報の扱い方」で情報をどのように活用すればよいかのヒントが示されている。 ・1年生の情報に関する内容を扱った＜書くこと＞の活動では、「文章作成ソフトのコメント機能による交流例」を挙げて、ICTを活用した学習活動が示されている。		○	・「まなびリンク」での「ワールドカフェ」、「引用の仕方」等に、工夫が感じられる。		◎	・1年生「話の構成を工夫しよう」「項目を立てて書くよう」、2年生「魅力的な提案をしよう」「情報を整理して伝えよう」、3年生「合意形成に向けて話し合おう」「考えを効果的に伝えよう」などは、ICTを活用しながら情報活用能力の育成を図る教材として配置されている。 ・巻末に「ICT活用のヒント」があり、活用しやすく、充実している。	
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・「領域別教材一覧」によって学習の見通しをもち、教材と「言葉の力」の関係を把握することができる。 ・「読むこと」では、「てびき」の「見通し」で目標を確認し、学習のステップを進み、「振り返る」という流れが分かりやすく提示されており、学習の見通しをもち、振り返る活動が設定され、＜話す・聞くこと＞＜書くこと＞の分野でも同様に設定されている。		◎	・「領域別教材一覧」によって、どの教材で何を重点に学ぶかが分かる。 ・「読むこと」における「学びの道しるべ」には「目標の確認」で学習の見通しをもち、主体的・対話的な活動を行い、「学び振り返る」で振り返りができるようになっている。 ・「話す・聞くこと」＜書くこと＞においても同様に、「目標の確認」で学習の見通しをもち、主体的・対話的な活動を行い、「学び振り返る」で振り返りができるようになっている。 ・巻末の「読み方を学ぼう一覧」は振り返りにも役立つものとなっている。		◎	・「学びナビ」で学習のポイントが示され、「みちしるべ」で学習過程が示され、取り組みやすい構造になっている。 ・「目標」が教材の最初のページで示され、最後には「ふりかえり」が設けられている。		◎	・「読むこと」＜話す・聞くこと＞＜書くこと＞の各分野で学習の過程が示され、学習のポイントは「学びのカギ」で示されている。 ・これまでの光村図書の教科書よりも学習の見通しをもつところから、振り返りをするところまで、学習の流れが生徒に分かりやすくなっている。 ・巻頭の「主体的な学びのために」は、学習の流れの解説として分かりやすい。	
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・＜書くこと＞では、1年生の『「食文化」のレポート』、2年生の『「地域の魅力」の紹介文』において特に家庭や地域社会との連携した学習が配置されている。		○	・1年生「防災教育」や2年生「キャリア教育」は、家庭や地域社会と関連させて考えられる学習になっている。		○	・家庭や地域社会と連携した学習としては、1年生「随筆を書く」、2年生「新聞の投稿を書く」の教材がある。 ・1年では「地域から世界へ」で地域と結びつける工夫がある。		○	・各学年とも「聞き上手になろう」では、身近なことをもとにした言語活動が配置されている。 ・2年生「表現を工夫して書く」「立場を尊重して話し合おう」では、家庭や地域社会との連携が組み込まれている。 ・SDGs 関係を題材にした教材も用意されている。	
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	・文法の学習は生徒が楽しく取り組めるように工夫されている。 ・デジタルコンテンツ一覧の学習マークに自主学習を支援する配慮がある。 ・各教材の「広がる言葉」や資料編に自主学習で取り組めるものが用意されている。 ・二次元コードの練習問題が自主学習で取り組めるものとして用意されている。		○	・「読み方を学ぼう」「思考の方法」が自主学習の一助になると考えられる。 ・生徒の関心をひく写真や挿絵が豊富である。 ・「歌の言葉」で歌詞が採用されている。（緑黄色野菜の「始まりの歌」） ・「二次元コード参照先コンテンツ」「学習用語辞典」「小倉百人一首」「日本文学史」等、資料が豊富で、関心のある生徒にとっては学習を広げる助けになると考えられる。		○	・「学びナビ」から「みちしるべ」あるいは、「学びナビ」から「学習の流れ」と自主的な学習につながる構成になっている。 ・「まなびリンク」には生徒の興味関心を高めるものが用意されている。 ・学習のまとまりごとに「広がる本の世界」が配置されており、自発的な学習を促している。 ・「学びのチャレンジ」は学習者が実力を試したくなるようなコーナーとして配置されている。		○	・「学びの扉」や「学びのカギ」の内容は課題を発見して解決していく形が示されていて自発的な学習につなげることができる。 ・教材に挿入されている資料や巻末の「国語の力試し」「書くことのミニレクソン」「二次元コード一覧」等、一人一人の興味関心に合わせて活用できるものが用意されている。	
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・豊富に題材が取り上げられており、1年生「多様性と共生社会」、3年生「環境」の新聞、「いつものように新聞が届いた」「国際社会と私たち」等が充実している。 ・各学年に他教科で学ぶ漢字コーナーがある。 ・書写の教科書にリンクしている。		○	・1年生「防災に関するデータ」「クジラの飲み水」、2年生「100年後の水を守る」、3年生「情報の信頼性を高める」等、充実した内容である。		○	・SDGs 教材「持続可能な未来を創るために」が各学年に配置されており、他教科と関連した教材も豊富である。		○	・各学年巻頭に「学習の見通しをもとう」があり、他教科との関連やSDGs の関連が示されており、豊富に教材が準備されている。	
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量	○	・各学年とも内容的に適切な分量である。		○	・各学年とも内容的に適切な分量である。		○	・各学年とも内容別配当の分量は適切である。		○	・各学年とも内容別配当の分量は適切である。	
	(2)教材・資料等の分量	○	・資料編が精選されている。（文法に関して、充実している。）		◎	・資料編の内容が充実しており、国語便覧並みである。（文法、百人一首、文法の学習、古典に関する資料、学習用語一覧）		○	・資料編が精選されている。		◎	・「語彙ブック」、資料編（3年生「文学史」）や教材内に挿入されている資料（2年生「つながる古典」）等、充実している。	
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、色調だけでなく、「行」もわかりやすいように「・」がついており、行数がわかりやすい。		○	・挿絵や写真がとてとても鮮明である。 ・特別支援教育からの視点、カラーユニバーサルデザイン等、様々な配慮がなされている。		○	・カラーユニバーサルデザインの配慮がある。 ・全ての行に数字か「・」がある。 ・学習の流れや学習の重点を示すことで誰もがスムーズに学習できるデザインになっている。 ・教科書全体の色調は落ち着いた色で、資料や写真等、必要な情報が適量組み込まれている。		○	・文字が濃く太く読みやすい。 ・全ての行に数字か「・」がある。全ての単元で学習の流れがわかるデザインになっている。 ・全体の色調も落ち着いた色で、これまでよりグラフや印刷等、視認性の向上が見られる。 ・各分野の専門家による校閲がなされており、様々な状況にある生徒への配慮が伺える。	
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	○	・1年生「防災教育」「金融・消費者教育」、2・3年生「SDGs」、3年生「キャリア教育」、1・3年生「国際理解・異文化理解」等、現代的な諸課題に関する教材が豊富である。		○	・教科書全体を通して、「未来を考えるための9つのテーマ」を提示し、1年生「多様性」、2年生「地球環境」、3年生「平和・国際理解」等、今日的課題への配慮がなされている。		○	・SDGs、キャリア教育等、今日的な問題を取り上げて他との関連を考えた内容になっている。		○	・SDGs、キャリア教育、防災、情報化等、今日的な問題を取り上げて他との関連を考えた内容になっている。	

書 写

教科名〔 国語 書写 〕

調査項目		新しい書写 一・二・三年 2・東書		現代の書写 一・二・三 15・三省堂		中学書写 17・教出		中学書写 一・二・三年 38・光村	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	①各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・P20にあるように、手本だけでなく、間違っただけのもの、違和感のあるものといった比較資料も記載されており、学習者のより良い字にしようとする意欲が高められるような工夫がされている。 ・「生活に広げよう」には、身近な事柄が取り上げられ、主体的に取り組む工夫がされている。	○	・P22には「活字と手書き文字・筆順」があり、自分自身の文字と手本を比べながら学習できるようになっている。 ・毛筆補充教材一覧があり、さまざまな手本について楷書と行書を見比べられる。 ・P44のグループでの活動を取り入れている。	○	・P12のように、書写の授業で主体的・対話的に学ぶことが明示されている。 ・P14のように、「考えよう」に「話し合いメモ」が設定されており、話し合う際のポイントや使うべき学習用語等が示されており、対話の中で学んでいけるような工夫がされている。	◎	・P7のように部首が色分けで図示されていて、字形のバランスを自分で考えることができるようになっている。 ・P132巻末の漢字表に「人名用漢字」があることで、自分の名前を中心に興味関心をもって取り組むことができるようになっている。また、楷書、行書ともに記載されていることにより、どの学年でも活用でき、特に行書で名前を書く際には、自分で調べて書くことができるようになっている。 ・P142には名前の配置についての記載があり、自分の課題として作品に向かうことができるようになっている。
	②基礎能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	◎	・各学年の最後に「書写テスト」があり、タブレット端末で解けるので、繰り返し学習ができるようになっている。 ・P14のように、「書写のかぎ」が記載され、学習のポイントが整理されている。 ・「書写活用ブック」で、言語活動についてまとめられている。 ・巻末の漢字一覧に「人名漢字」が載せられている。	◎	・P66には「学力テスト問題」が配置され、3年間の振り返りができるとともに、入試問題にも対応した内容がある。 ・巻末に、部分別行書一覧の資料がある。	◎	・カタカナの筆順が記載されており、間違っ覚えていた生徒にとって、役立つ内容となっている。 ・他者と違い、巻末の漢字一覧が、小学校、中学校で習った漢字別になっている。	○	・P40の「学びのかぎ」のように、単元の学習ポイントが示され、手本以外の文字であっても活用できる工夫が見られる。
	③情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・筆の運び方が分かりやすい動画になっている。 ・巻頭に二次元コードがあり、まとめて見ることができる。 ・ポイントが動画の中で押さえられており、補足の必要がない。	○	・P104に二次元コード一覧表があり、分かりやすい。コンテンツ一覧があるので、まとめて見ることができる。 ・P8の動画では、「分度器で45度」等の具体的で分かりやすい表現が使われている。 ・ポイントが色分けされており、視覚的にも分かりやすい。	○	・P3の「まなびリンク」の活用度が高い。 ・動画内に目標があり、目的意識をもって視聴できるようになっている。	◎	・P29には資料一覧の二次元コードが記載されている。そこには「タブレット等を使うときに気を付けること」の動画もあり、今の需要に沿うものになっている。 ・PDF資料がついており、手本等を印刷して配付する際に役立つようになっている。 ・1分程度に編集された動画があり、練習時間の確保につながるようになっている。 ・手本に付随された動画では、筆先の軌跡や筆の動かし方も示されている。 ・P116の「通信文を見てみよう」には、メール文の書き方や、プレゼンのスライド作成についての記載があり、タブレット端末を用いた学習に直結した内容となっている。 ・P117にはロイロノートに近い資料が用いられており、タブレット端末を用いた学習で気を付けるべき点を学ぶことができる。
	④学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・まとまりごとに「目標」とそれに対しての「振り返ろう」「書写のかぎ」がある。	○	・P23のように「振り返ろう」で学習したことを活用したり、自分のことばでまとめる項目があったりしており、学習を振り返ることができるようになっている。 ・P35のように左下に「振り返るポイント」があり、毛筆の際に意識しやすい工夫がある。	○	・各課題に「振り返ろう」の項が設けられ、そこにチェック項目が示されており、振り返りがスムーズに行えるような工夫がある。 ・多くの単元が「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の構成になっており、見通しをもちやすくなっている。	◎	・目標、学習の振り返りが明確に示され、見直しをもって主体的に学習に取り組める工夫がある。 ・Q&A形式が分かりやすい。 ・それぞれの課題が、「考えよう→確かめよう→生かそう」の順に示されており、見直しを立てて学習できる。また、「生かそう」では、硬筆に関連させた学習ができる。
	⑤各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・P62の「楷書と行書の使い分け」では、身近な例が取り上げられ、使い分けの観点がわかりやすく示されている。手紙の相手によっての使い分け方も、今後の生活に役立つ内容になっている。 ・「生活に広げよう」は、地域とのかかわりを意識した内容になっている。	○	・P62のように、楷書と行書の使い分けを考えさせながら、伝言を受けたときの箇条書きのメモの取り方や、贈り物をしてくれた相手へのお礼状の書き方が学べるなど、実用的な内容がある。	○	・P88の「日本建築と『書』」のように、現場学習や修学旅行等とのつながりを感じられるようになっている。	◎	・P27には年賀はがきの実物が付属され、実際に年賀状を送る体験ができるようになっている。 ・P33にはSDGsに関する記載がある。 ・P94には新聞紙面が題材となっており、書体の使い分けを学ぶ際に、生活を実感しやすい工夫がある。
2 使用上の便宜	⑥生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○		○	・字に関する職に就いている人の紹介もあり、職業への関心が高められる工夫がある（P70）。 ・P74の「篆刻について知ろう」のように、幅広く書写の知識に触れられている。	◎	・P16に「筆圧の違い」が可視化されており、イメージをもって学習に取り組むことができるようになっている。 ・P44には中心線が書かれており、配置やバランスを見直すポイントとして分かりやすくなっている。	◎	・P48にあるように、学習に関連した資料がコラムの形で各学習材の後に記載されており、学習活動と併せてその都度確認ができるようになっている。 ・P42の1年生の最初の手本が半紙の原寸大で記載されており、バランスを視覚的に取りやすいようになっている。 ・P96にあるように、ユニバーサルデザインフォントで記載されており、社会情勢と連携した学習が進められるようになっている。 ・マンガでイメージをもちやすくし、主体的に考えられる工夫が見られる。 ・P104では著名人の筆跡を見ることができ、興味関心をもって自らの字形を見つめ直せるようになっている。
	⑦他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・各学年の総合で行う内容の中で、文字を使用する場面が取り上げられている。	○	・P52で学ぶ点画の省略や筆順の変化に、「都道府県名」が題材として使われている。 ・P74の番号と対応するように地図と有名な食べ物イラストで載せられている。	○	・巻末の漢字一覧が部首別になっており、国語の授業で扱う漢和辞典との関連が見られる。	○	・P90の「全国文字マップ」では、各都道府県の名所旧跡等の代表的な場所が挙げられ、社会科の学習との関連が図られている。 ・P98では、紙面に「総合」と明示されており、総合的な学習の時間との関連を意識して学習に取り組むことができるようになっている。 ・P110には実生活に役立つ、願書や送り状の学習があり、適切な大きさの手本が記載されている。送り状が行書になっているのは本書だけで、生活に密着した学習が望める。
	⑧内容配当の分量	○	・1年生の書初め手本が楷書の原寸大で示され、文字数も四字で適切である。			○	・P72にあるように、2年生の行書手本が四字になっているので適切である。 ・1年生の書初め手本が楷書の原寸大で示されている。	○	・P76にあるように、2年生の行書手本が四字であるので適切である。 ・2年生の書初めが、唯一四字で記載されており、適切である。
3 その他	⑨教材・資料等の分量					○	・コラムの情報量が多い。また、そこには二次元コードも付いており、資料を活用した学習がしやすくなっている。	○	・動画資料が多い。
	⑩内容の配列及び適本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・P10に「徳先の向きは折り紙半分」と記載されているように、視覚的に分かりやすい工夫がなされている。 ・送筆を「トン スー トン」という擬態語で表し、リズムを意識して筆運びを学べるような工夫がある。 ・見開きページの左右に手本と解説が載っている。			○	・P18にあるように、1年生最初の手本に名前も記載されているので、バランスが分かりやすくなっている。 ・写真が多く掲載されており、視覚的に分かりやすい工夫がされている。	◎	・P33には右利きだけでなく、左利き用の動画もある。 ・P39のように、筆圧が数字やペン先のイラストの大きさで表現されており、可視化されている。 ・P42にあるように、1年生最初の手本に名前も記載されているので、バランスが分かりやすくなっている。 ・別冊「書写ブック」は、硬筆の学習が系統立ててまとめられている。そのため、副教材として練習帳を購入する必要が無いほど、充実している。 ・P41では、送筆が「トン スー トン」という擬態語で表されており、リズムを意識して筆運びを学べるような工夫がある。 ・色の割合を極力抑え、落ち着いた学べる紙面となっている。

社会・地図

		教科書の名称 発行者の番号・略称							
調査項目		新編 新しい社会 地理 2・東書		中学社会 地理 地域にまなぶ 17・教出		社会科 中学生の地理 46・帝国		中学社会 地理的分野 116・日文	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫			○	・「学習したことを活用してまとめよう」はジャンプ課題としてそのまま活用できる。	◎	・アクティブ地理（4テーマ）が自身の考えをまとめ、対話を促す内容になっており、主体的・対話的で深い学びにつなげられる工夫が見られる。（思考ツールを用いた学習 P90、P91）（「自然災害から命を守ろう」P150、P151）・「対話」として対話的に学ぶ際の学習課題が示されている。	◎	・各単元初めのポートフォリオをそのまま用いて最後まで学ぶことができる。 ・「議論してみよう」はジャンプ課題として活用できる。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫					◎	・「技能をみがく」「地理プラス」のコラムが各所に掲載されており、特に気候帯の単元では雨温図の一覧が掲載されていることや、リンク先の動画が論理的思考力を育成することに役立つ工夫がされている（P29）。	◎	・ポートフォリオを活かして、学習を整理してから最後に「議論してみよう」を行うことで、学習課題を捉えることができる。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・ほぼ全ての小単元に二次元コードがあり、知識の確認ができる。	○	・数か所に二次元コードがあり、補充教材として活用できる。	◎	・要所要所に二次元コードがあり、リンク先の資料の質が良い。 ・P293「プレゼンテーションの作り方」のページではICTを用いた学習のまとめができるようになっている。	○	・ほぼ全ての小単元に二次元コードがあり、外部リンクでそのままの教材として活用できる。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫					○	・「章の問い」「節の問い」「本時の学習課題」が示されており、章のまとめが章の問いに対応した振り返りにつながる工夫がされている（P168、P169、P180、P181）。	◎	・単元始めの「節の問いを立てよう」は、学習課題を捉えやすい。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫					○	・現行の帝国書院の教科書と同様に、地域社会の課題を捉えるページが複数ある（「水害」P221、「四日市ぜんそく」P223）。		
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	・探究課題を自分たちで設定するような流れがある。	○	・毎時の標題が印象的であり、標題をそのまま学習課題とすることができる。	◎	・アクティブ地理が自身の考えをまとめ、対話を促す内容になっており、主体的・対話的で深い学びにつなげられる工夫が見られる（P90、P91）。	○	・「議論してみよう」は、主体的に社会問題に知識を用いて考えることができる。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫					◎	・他教科との関連について、各ページの下に記述が見られる。		
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量								
	(2)教材・資料等の分量					◎	・津市及び三重県に関する記述が多い。（「志摩半島」「リアス海岸」「香良洲の三角州」「志摩市（英虞湾）」「真珠養殖」「津市 林業」P142、P143、P210）		
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等					○	・日本の各地域の学習の単元では、各地域の巻頭に絵地図が書かれており、学習の見通しが立てやすい。 ・文字がはっきりとしていて、見やすい。		
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	○	・SDGsとリンクした各単元の課題のページがある（「未来にアクセス」）。	○	・SDGsとリンクした各単元の課題のページがある（「クロスロード」）。	◎	・防災・人権・SDGs等、学習内容から今日的課題へとリンクすることができる。 ・「未来に向けて」のコラムや、アフリカの送金サービス（P87）等、今日的課題の取り扱いが多い。	○	・SDGsとリンクした各単元の課題のページがある（「持続可能な地域を目指して」）。

教科名〔 社会（歴史的分野） 〕

		教科書の名称 発行者の番号・略称									
調査項目		新編 新しい社会 歴史 2・東書		中学社会 歴史 未来をひらく 17・教出		社会科 中学生の歴史 46・帝国		中学歴史 日本と世界 81・山川		中学社会 歴史的分野 116・日文	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・章の初めに単元を貫く学習課題について話し合わせたり、章末で発表を促すような発問がある。 ・小単元ごとに話し合う発問が随所に見られる。			◎	・考えを書き込むことができ、他者の意見を聞くことが示されるなど、主体的・対話的で深い学びにつながる内容となっている(「アクティブ歴史」P34、P76、P204、P248)。	○	・章の初めに単元を貫く学習課題が本文形式で記載がある。 ・章末にまとめページがあり、そのまま書き込むことができる。 ・思考を深めるコラムと問いが各章1～2ずつ掲載されている。	◎	・章の初めに単元を貫く学習課題について話し合わせたり、章末で発表を促すような発問が見られる。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	○	・章末に思考ツールを用いた例がある。			○	・巻頭9ページに思考ツールの使い方が示されており、使い方の動画へのリンクも掲載されている。 ・章末に思考ツールを用いた例がある。			○	・章末に思考ツールを用いた例がある。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・各章に二次元コードがあり、アクセス先のサイトは項目ごとや章ごとにまとめられている。 ・回答をデジタルで入力・保存できるようになっており、とても利用しやすい。	○	・P19等、随所に二次元コードがある。 ・歴史学習に必要な技能を身につけるための動画がある(「歴史の技」P13、P25)。	○	・各章に二次元コードが掲載されており、リンク先では項目ごと章ごとのまとめや課題に対応したワークシートが掲載されており、利用しやすい。			◎	・小単元ごとに二次元コードがあり、章ごとの間に対するワークシートはWord、PDF、Googleドキュメントの3つから選べるようになっている。 ・各時間に簡単な振り返りの4択問題が用意されている。 ・二次元コードから教科書に載せられなかった資料にもアクセスでき、とても利用しやすい。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎	・毎時間の学習課題と中単元ごとの学習課題の記載がある。 ・章のはじめと章末では年表や地図等を活用した発問がある。 ・流れに沿って記述していくことで単元を貫く学習課題に回答できるようになっている。	○	・毎時間の学習課題と中単元ごとの学習課題の記載がある。 ・章のはじめと章末では年表や地図などを活用した発問がある。	◎	・毎時間の学習課題と中単元ごとの学習課題の記載があり、まとめのページに地図が掲載されていて地理的な見方での振り返りもできることに加え、マーカーで年表の出来事をなぞるなどの課題もある。			◎	・毎時間の学習課題と中単元ごとの学習課題の記載がある。 ・章のはじめと章末では年表や地図等を活用した発問がある。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫			○	・身近な地域の歴史に関する特設ページをほぼすべての章に設けている。	○	・テーマを設けて身近な地域の歴史について追究することができるようになっている(P8～P13、P82)。				
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・章のはじめに興味関心を高める発問がある。 ・歴史の追究に関するコラムや解説が随所に見られ、深めて探究ができる工夫がされている。	○	・章のはじめに興味関心を高める発問がある。 ・歴史の追究に関するコラムや解説が随所に見られる。	○	・章はじめに興味関心を高める発問がある。 ・歴史の追究に関するコラムや解説が随所に見られ、学習を深め、探究できる工夫がある。 ・学習課題が「章の問い」「節の問い」「本単元の課題」と系統立てられており、まとめにもつながっている。	○	・歴史の追究に関するコラムや解説が随所に見られ、学習を深め、探究できる工夫が見られる。	○	・章はじめに興味関心を高める発問がある。 ・歴史の追究に関するコラムや解説が随所に見られ、学習を深め、探究できる工夫が見られる。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・関連するところにマークがある。			◎	・歴史的分野の中で日本史と世界史のつながりを理解しやすい工夫がみられる(P110)。 ・「モノカルチャー経済」など地理的分野とのつながりが意識されている(P174)。 ・「人権」「多文化」など他の学習との関連が示されている(「未来にむけて」P174、P175)。				
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量										
	(2)教材・資料等の分量					○	・適切な分量である。 ・使用されている写真が美しい。				
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・本文と太字の区別がはっきりしている。 ・字の間隔がやや狭いが、地図は見やすくなっている。			◎	・本文と太字の区別がはっきりしている。 ・地図はとても見やすい。 ・ページのレイアウトが見やすい。				
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	○	・SDGsに関連するところにマークがある。			◎	・SDGsに関連するところにマークがある。 ・人権学習に関する記述が詳細に書かれており、正確に理解しやすい(P137)。			○	・SDGsに関連するところにマークがある。

		教科書の名称 発行者の番号・略称							
調査項目		新しい歴史教科書 225・自由社		新しい日本の歴史 227・育鵬社		ともに学ぶ 人間の歴史 229・学び舎		国史教科書 236・令書	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫								
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫								
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫			○	・P3にのみ二次元コードがある。				
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・毎時間の学習課題の記載がある。 ・章末では年表や地図等を活用した発問がある。	○	・毎時間の学習課題と中単元ごとの学習課題の記載がある。 ・章はじめと章末では年表や地図等を活用した発問がある。				
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・身近な地域の歴史に関する特設ページをほぼすべての章に設けている。						
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・歴史の追究に関するコラムや解説が随所に見られる。	○	・章はじめに興味関心を高める発問がある。 ・歴史の追究に関するコラムや解説が随所に見られる。				
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫								
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量								
	(2)教材・資料等の分量								
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等					○	・版が大きく資料等が見やすい。		
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等							○	・人権尊重、多文化共生の記述が多い。

中学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表
教科名 [社会 (公民的分野)]
○特に優れている
○優れている

		教科書の名称 発行者の番号・略称											
調査項目		新編 新しい社会 公民 2・東書		中学社会 公民 とともに生きる17・教出		社会科 中学生の公民 46・帝国		中学社会 公民的分野 116・日文		新しい公民教科書 225・自由社		新しいみんなの公民 227・育騰社	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・見方・考え方、スキルアップ、みんなでチャレンジのコーナーが充実しており、協働な学習を行うことができる。			◎	・導入のページに、45年前と現代の比較のイラストがあり変化が分かりやすく、章の振りかえりにもつながっている（P2、P3、P30、P31、P74、P75）。 ・アクティブ公民が9つ設定されており協働的に学ぶことができる（P101、P208、P209）。 ・各単元に「対話」として学習課題が掲載されており、協働的に学ぶことができる（P120、P121）。	○	・「アクティビティ」コーナーでは、日本の人口や公共の福祉等をテーマに深く考えることができる。				
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	◎	・章のふりかえりなど、各所に思考ツールがちりばめられている。 ・トライの問題を通して、協働的な学習で考えたことと関連して言語化することができる。	◎	・章のふりかえりなど、各所に思考ツールがちりばめられている。	◎	・章のふりかえりなど、各所に思考ツールがちりばめられている。 ・資料や本文を活用してインプット、アウトプットができる仕組みが数多くある（P174、P175）。 ・レポート作成手順の記載がある（P216～P223）。	◎	・デジタルコンテンツ内に、ポートフォリオがあり、すぐに使用できる。 ・章のふりかえりなど、各所に思考ツールがちりばめられている。				
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・各ページに二次元コードがあり、ワークシートやチェック&トライ等、多くのコンテンツがある。 ・「振り返ろう」「深めよう」を効果的に活用することが可能である。	○	・二次元コードがあり、「公民の技」では、動画による詳しい説明がある。	◎	・各ページに二次元コードがあり、資料が豊富である。	○	・各ページに二次元コードがある。				
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・章や節ごとに、単元を貫く問いが設定されている。 課題をつかむ→追究する→解決するという流れが理解しやすい。 ・確かめよう→振り返ろう→深めようの手順が各章に設定あり、知識・思考・主体それぞれの観点を振り返ることができる。	○	・章や節ごとに、単元を貫く問いが設定されている。	○	・章や節ごとに、単元を貫く問いが設定されている。 ・「学習の前に」→「振り返り」の流れで学習することができる。	○	・章や節ごとに、単元を貫く問いが設定されている。	○	・章や節ごとに、単元を貫く問いが設定されている。	○	・章や節ごとに、単元を貫く問いが設定されている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・「市長になってみよう」「模擬裁判をやってみよう」などロールプレイで自分事として捉えることができる工夫がある。 ・ワーク&トライをICT端末を利用して家庭学習と連携することができる。			○	・アクティブ公民では、「マンションの騒音問題を解決しよう」（P22、P23）、「民主主義のあり方を考えよう」（P42、P43）など、ロールプレイで自分事として捉えることができやすいようになっている。	○	・「明日に向かって」のページでは、「裁判員裁判」や「契約」等、社会に参画する手がかかりとなりやすい。				
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・18歳へのステップ：成人年齢引き下げにともなう変化がイラストとともに分かりやすく掲載されている。 ・「市長になってみよう」「模擬裁判をやってみよう」などロールプレイで自分事として捉えやすいような工夫が見られる。 ・もっと知りたいのコーナーで興味や関心に応じて学びを深めることができる→パフォーマンス課題に活用することができるようになっている。			◎	・18歳への準備：成人年齢引き下げにともなない、メディアリテラシーや契約など実践的な知識を学ぶことができる（P128、P129、P154、P155）。 ・アクティブ公民では、「マンションの騒音問題を解決しよう」「民主主義のあり方を考えよう」などロールプレイで自分事として捉えることができやすい工夫がある（P22、P23）。						
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫					◎	・各ページに他教科・小学校社会科・地理・歴史との関連が書かれている。	○	・各ページに地理・歴史との関連した問いがあり、より深く考えることができる。				
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量	○	・生徒が理解しやすい平易な記述になっていることが多く、内容的に過不足のない適度なものになっている。										
	(2)教材・資料等の分量	◎	・資料は最新のものが多く、量も豊富であり、資料が見やすいように工夫がされている。			◎	・各ページに二次元コードがあり、資料が豊富である。 ・学習内容が現代的な内容を含めて詳細に記載されている（「メタバース」P6、「ESG投資」P151）。						
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・資料に背景色を使用されている。			○	・ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザインが用いられている。 ・写真、図等が明瞭で見やすい。	○	・点字が実際に印刷されている。				
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等					◎	・SDGs、部落差別、性別による差、性差、LGBTQ+、アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人、インクルージョン、外国人参政権、ハンセン病、投資、金融、ヘイトスピーチ解消法、パートナーシップ制度といった課題についての記述がある。	○	・SDGs、部落差別、アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人、性の多様性、男女共同参画、外国人、ハンセン病といった課題についての記述がある。				

中学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表
教科名〔 社会 地図 〕

◎特に優れている

○優れている

		教科書の名称 発行者の番号・略称			
調査項目		新編 新しい社会 地図 2・東書		中学校社会科地図 46・帝国	
		評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫			○	・「地図で発見」から学習を深めることができる（P122）。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫			○	・「地図で発見」で得た情報を言語化することができる。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・二次元コードからの情報が視覚的に捉えやすく、特に地球儀から捉える資料は一度に世界を同じ基準で見ることができる。	○	・二次元コードからの情報量が多い。 ・例えば、州ごとに動画や図表等を見ることができるようになっており、デジタルコンテンツに連動している。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫				
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫			◎	・津市及び三重県の特徴が記載されている（「尾鷲の林業」P116、「洪水の備え（輪中）」P125、「三角州（香良洲）」P155）。
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫			◎	・「大陸から見た日本」の地図が日本列島を違う角度から見ることにより、新しい気づきにつながる工夫がある（P35、P36）。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・歴史的分野・公民的分野と関連した内容が記載されている。	◎	・歴史的な出来事などが地図中に記載されている（P93、P94）。 ・ヨーロッパの国々の変遷が見られ（P49）、歴史的分野の学習での地図帳活用につながる（P117、P118）。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量				
	(2)教材・資料等の分量			◎	・農業、工業等の分布にグラフを添えてある（P115、P137）。
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・歴史的分野・公民的分野に連動したレイアウトになっている。	◎	・日本の各地方のページは、同じテーマ図により地域の特徴を比較できるようになっている（P115、P137）。
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等			◎	・SDGsとリンクしたページが見られる（P8、P115）。 ・防災・環境についての記述が見られる（「富士山噴火時の想定」P118）。

数 学

		教科書の名称 発行者の番号・略称							
調査項目		新編 新しい数学 2・東書		数学の世界 4・大日本		中学校数学 11・学図		中学数学 17・教出	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・各章に配置した「深い学び」のページでは「問題をつかむ→見通しをたてる→問題を解決する→振り返る→深める」といった学習過程を示し、課題解決のステップを意識して取り組めるようにしているとともに、見方・考え方を振り返るようにしている。 ・4人の生徒と対話しながら見方・考え方を働かせて学習を進められるようにしている。 ・思考力・判断力・表現力等を育む「活用の問題」を章末に配置している。 ・巻末に学習内容を振り返るページを設定し、見方・考え方で学習内容のつながりが捉えられるようにしている。	○	・すべての章に、問題発見、問題解決の4ステップを示した課題を設けて、問題解決の取り組み方を身に付けるようにしている。 ・思考力・判断力・表現力等を育む「活用の問題」を章末に配置し、取り扱われるようにしている。	○	・すべての章に、問題解決の過程を示した課題を設けて、問題解決の方法を理解させるようにしている。 ・キャラクター等の吹き出しを使って、学習のきっかけになる問いを配置している。 ・見方・考え方を適宜示すとともに、巻末では示した見方・考え方をまとめている。 ・思考力・判断力・表現力等を育む「活用の問題」を章末に配置し、取り扱われるようにしている。	○	・知識・技能を活用する場面に学びのプロセスのページを設け、問題発見・解決の過程を生徒に意識づけできるようにしている。 ・キャラクター等の吹き出しを使って、学習のきっかけになる問いや学習内容のポイントを配置している。 ・見方・考え方を適宜示すとともに、その意味が分かるように具体的な説明を加えている。また、巻頭には一覧として示されている。 ・思考力・判断力・表現力等を育む「活用の問題」を章末に配置し、取り扱われるようにしている。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫								
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・二次元コードが1752個と最も多く、ほとんどのページに二次元コードが配置されている。 ・二次元コードで多くの問題にヒント、詳しい解答、類題が設けられており十分な問題演習が積めるとともに、家庭学習も含め個別最適な学習がしやすい教科書である。 ・データの活用では、データの収集、分析、結論等のPDACサイクルに沿って主体的に学習を進められるようにしている。						
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・小單元ごとにめあてを示し、ゴールを意識して取り組めるようにしている。 ・例、例題には分かりやすいタイトルがつけられ、学習内容を明確にしている。 ・学習内容のつながりを強く意識した構成で、巻末には見方・考え方でつなぐ、領域毎のつながりの確認、問題演習があり、質の高い振り返りができる。 ・「基本の問題」には学習したページ番号等が記載されており確認しやすい。	○	・小單元ごとにめあてを示し、ゴールを意識して取り組めるようにしている。 ・例、例題には分かりやすいタイトルがつけられ、学習内容を明確にしている。 ・「たしかめよう」には学習したページ番号等が記載されており確認しやすい。	○	・小單元ごとにめあてを示し、ゴールを意識して取り組めるようにしている。 ・例、例題には分かりやすいタイトルがつけられ、学習内容を明確にしている。 ・「確かめよう」には学習したページ番号等が記載されており確認しやすい。 ・章末に、この章の学習でできるようになったことを自己評価できる項を設けて、学び直しや復習が必要な内容が明確になるようにしている。	○	・小單元ごとにめあてを示し、ゴールを意識して取り組めるようにしている。 ・例、例題には分かりやすいタイトルがつけられ、学習内容を明確にしている。 ・「基本の問題」には学習したページ番号等が記載されており、確認しやすい。 ・章末に学習のまとめのページがあり、穴埋め形式で基本的な内容を確認できるとともに、学んでよかったことや気づいたことを振り返るための事項も示されている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫								
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・章のとびらでは、身近な場面によるシンプルな課題を親しみやすいイラストで提示するとともに、適宜質の高い動画教材も配置し、学習の動機付けを促し、関心・意欲を高めている。						
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・章末に配置した「活用の問題」及び巻末に配置した自由研究において、問題を解きながら実生活や社会とのつながりを実感できる。	○	・章末に配置した「活用・探究」及び巻末に配置した「もっと数学の世界へ」において、問題を解きながら実生活や社会とのつながりを実感できる。	○	・章末に配置した「活用」及び巻末に配置した「さらなる数学へ」において、問題を解きながら実生活や社会とのつながりを実感できる。	○	・章末に配置した「活用の問題」及び巻末に配置した「数学ライブラリー」において、問題を解きながら実生活や社会とのつながりを実感できる。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量								
	(2)教材・資料等の分量								
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等								
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等								

		教科書の名称 発行者の番号・略称					
調査項目		未来へひろがる数学 61・啓林館		これからの数学 104・数研		中学数学 116・日文	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・学習内容を利用する節には、問題発見・解決の過程を意識できるように、ステップ方式の課題を設けている。 ・見方・考え方を「問題発見」「問題解決」に区別して明示し、下線で教科書の記述と対応させている。 ・言語活動「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」を効果的に設け、対話的で深い学びを促している。 ・各章、各節の導入「学習のとびら」では、身の回りの題材を取り上げるとともに、二次元コードと言語活動のコーナーを設け、生徒が興味・関心を持って取り組めるようにしている。	○	・キャラクターの吹き出しを使って、学習のきっかけになる問いや学習内容のポイントを示している。 ・生徒や先生の対話が随所にあり、対話の意味や発問について考えながら学びを深めることができる。また、ペアやグループで対話する際の手本にもなっている。 ・思考力・判断力・表現力等を育む「活用の問題」を章末に配置し、取り扱われるようにしている。	○	・見方・考え方を適宜示すとともに、その意味が分かるように具体的な説明を加えている。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	◎	・随所に言語活動のコーナー「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」を設け、多様な考えにふれたり、根拠を明らかにして説明する力を身につけたりすることができるようにしている。 ・経験の浅い教員にも言語活動の目安が示されていて使いやすい。				
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・二次元コードが1384個と多く、大部分のページに種類豊富な二次元コードが配置されている。 ・教科書に掲載されているすべての例、例題及び章末問題（学びを身につけよう）、巻末の補充問題（学びをふりかえろう、力をつけよう）に解説動画がある。単元中に設けられている補充問題や章末問題（学びをたしかめよう）にも解説があり個別最適な学習に活用しやすい。 ・データの活用では、データの収集、分析、結論等のPDACサイクルに沿って主体的に学習を進められるようにしている。	○	・「補充」、「イメージ」、「資料」、「考察」、「探求」の5種類の二次元コード（合計313個）が配置されている。 ・教科書に掲載されているすべての例題の解説動画が数研出版のWebサイトに用意されており、予習復習等、家庭学習に活用できる（合計189本）。		
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎	・小単元ごとにめあてを示し、ゴールを意識して取り組めるようにしている。 ・例、例題には分かりやすいタイトルがつけられ、学習内容を明確にしている。 ・例、例題から問へのつながりの表記が分かりやすい。解説動画によって、何度も振り返ることができる。 ・「学びをたしかめよう」には学習したページ番号等が書かれており、確認しやすい。 ・章末に「わかったこと、できるようになったこと、さらに学びたいこと」を振り返る活動を設けている。例が示されているので、教員・生徒ともに参考になる。	○	・小単元ごとにめあてを示し、ゴールを意識して取り組めるようにしている。 ・例、例題には分かりやすいタイトルがつけられ、学習内容を明確にしている。 ・各章の前に、「ふりかえり」で必要な知識等を確認してから各単元に入ることができる。 ・「確認問題」には学習したページ番号が記載されており確認しやすい。	○	・小単元ごとにめあてを示し、ゴールを意識して取り組めるようにしている。 ・例、例題には分かりやすいタイトルがつけられ、学習内容を明確にしている。 ・「基本の問題」には学習したページ番号等が記載されており確認しやすい。 ・各章の前に、「次の章を学ぶ前に」で必要な知識等を確認してから各単元に入ることができる。 ・巻末に対話シートや振り返りシートを付け、自分の考えを整理して互いの考えを共有しやすいようにしたり、振り返りをしやすいようにしたりしている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫						
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・章末問題やまとめの問題（「学びをふりかえろう」「力をつけよう」）が充実していることに加え、二次元コードで、例、例題も含めた解説動画を見ることができるため、自らの学習状況に応じた自主的な学習を促すことができる。				
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・「学びをいかそう」において、問題を解きながら実生活や社会とのつながりを実感できる。社会科の時差、理科の地震・反射角等、つまずきやすい内容が取り上げられているので、学びなおしもできる。 ・「社会見学にいこう」のコーナーでは、数学が社会で必要であることを学ぶことができる。	○	・章末に配置した「学んだことを活用しよう」及び巻末に配置した「数学旅行」において、問題を解きながら実生活や社会とのつながりを実感できる。	○	・巻末に配置した「数学研究室」において、問題を解きながら実生活や社会とのつながりを実感できる。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量	○	・まとめの問題（「学びをふりかえろう」「力をつけよう」）の分量が充実しており、難易度も入試問題のやや難しいレベルまで幅広く掲載している。	○	・まとめの問題（「ぐんぐんのぼそう チャレンジ編」）の分量が充実しており、難易度もやさしいものから、やや難しいレベルまで幅広く掲載されている。		
	(2)教材・資料等の分量						
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	◎	・二次元コードで、例、例題、章末問題（学びを身につけよう）、まとめの問題（学びをふりかえろう、力をつけよう）の解説動画を見ることができるため、自ら学習を進める際の支援ツールになる。	○	・1ページあたりの情報量が適切で内容が簡潔である。 ・まとめの確認問題も見やすい。		
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等						

理科

教科名〔 理科 〕

調査項目		教科書の名称 発行者の番号・略称									
		新しい科学 2・東書		理科の世界 4・大日本		科学 11・学図		自然の探求 中学理科 17・教出		未来へひろがるサイエンス 61・啓林館	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・2年生P22のように理科の見方・考え方のポイントが示されている。 ・各単元で探究学習をするための流れが教科書で示されており、じっくり探究できるようになっている。			○	・探究のやり方が最初のページに載っており、どのように理科を学べばよいか分かりやすい。 ・「理路整然」という形で数十ページごとに探究のやり方や科学的な考え方をアドバイスするページがあって良い。	○	・「疑問」として、1年生P43のように主体的に進められる場面の設定がある。 ・3年生P208のように、考察の場面で「話し合おう」として対話を促す場面の設定がある。	○	・2年生P191の探Q実験や巻末の「みんなで探Qクラブ」では、重点的に探究の学習課題に取り組むようになっている。 ・「動画でチャレンジ」は単元を学んだ後で考えたいと思える内容になっている。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫									○	・2年生P286の「理科における話し合い」では、理科における言語活動の要点が紹介されている。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・実験の手順や、資料の動画等、Webにつなげて情報を活用することができる。			○	・全ページに二次元コードがあり、教科書をWebで見ることができたり、「チャットボット」で分からないことを質問できたりしている。	○	・1年生P191～193、2年生P151～153、3年生P267等で各種メディアが取り上げられている。 ・「まなびリンク」が設けられており、Webにつなげて情報活用ができるようになっている。	○	・各学年とも、多くの二次元コードで解説動画や図等を、タブレット端末で読み込むことができるため、自主学習でも活用できる。 ・「ICTでトライ！」として画像が操作できるデジタルコンテンツがある。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫			○	・既習事項とこれから学ぶべき内容の見通しが立つように、単元ごとに最初にまとめられている。					○	・3年生P3のような学ぶ前にトライ、P39のような学んだ後にリトライの流れは、自分の考えの変化を確認できるだけでなく、ふり返りにも活用することができる。 ・1年P19等、二次元コードから振り返りシートを取り込むことができる。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫									◎	・3年生P195「部活ラボ」、2年生P159「お料理ラボ」のように、生徒たちの生活につながりやすく、家庭や地域での学びにもつなげることができるような内容がある。
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・「お仕事図鑑」や「まちなか科学」等の関心を引き出す内容が各単元に盛り込まれている。 ・2年生の巻末付録で温帯低気圧への理解を深めようと工夫されている。	○	・対話的な学習になるように、生徒のイラストを用いた対話が紹介されている。					◎	・3年生のP185やP195のような「Action」にある課題は日常とのつながりを実感できるようになっていたり、P225「探Qのたね」にある課題は、実際に試したくなるような課題となっていたりしている。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫			○	・「つながる」のコーナーでは、教科等横断的な部分や日常に帰る部分の説明が充分されている。			○	・1年生P106「ブリッジ算数」や2年生P77「ブリッジ国語」等で他教科との関連が示されている。	○	・1年生P96コラム「社会科と関連」には石器の話が、2年生P161では英語で元素名が記載されているが、それらを二次元コードでさらに調べることができるようになっている。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量										
	(2)教材・資料等の分量										
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・イラストでの説明が多く、活字が苦手な生徒も教科書に引き込まれやすくなっている。					○	・1年生は2、3年生より大きなポイントの文字が使われている。 ・「探求の進め方」が折り込みになっており、いつでも参照できるように工夫されている。	○	・各学年とも、生徒キャラクターやその服装に、多文化共生や性の多様性への配慮がある。
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	○	・防災やSDGs等に係る内容が各学年で紹介されている。	○	・教科書が小さく扱いやすい。			○	・1年生P197、2年生P201、3年生P271等、SDGsに関するものが「ハローサイエンス」で紹介されている。	○	・3年生P285の「なるほど」のページのように、自然災害を科学的に様々な視点から捉えることで、「知ってどう防ぐのか」「何を考えて何を準備するのか」等を考えることができている。 ・探Qシートや実験動画等が記載されており、教師経験の多寡に関わらず使いやすい。

音楽

中学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表
教科名〔 音楽（一般） 〕

◎特に優れている

○優れている

		教科書の名称 発行者の番号・略称			
調査項目		中学音楽 音楽のおくりもの 17・教出		中学生の音楽 27・教芸	
		評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・「アクティブ」というページが設けられており、主体的・対話的に深い学びへとつなげられるよう工夫されている(1年生 P16、P26、P27、P49)。 ・へ音譜表の解説ページで、男子の変声期についても触れられており、丁寧に低い音域の記し方等がまとめられている(1年生 P30)。	◎	・各教材のページに、音楽的な見方・考え方を働かせて学習するための考えたいポイントが例示されており、めあてとともに、主体的・対話的で深い学びへとつなげやすく工夫されている(1年生 P10、P12)。 ・音楽の諸要素の説明が簡潔にまとめられている(1年生 P93)。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	◎	・記述欄や二次元コードからワークシートを使用して、個別学習やグループ活動等で対話的な学びが図られやすくなっている(1年生 P16、P26、P27)。	◎	・記述欄や二次元コードからワークシートを使用して、個別学習やグループ活動等で対話的な学びが図られやすくなっている(1年生 P26、P27、P32、P33)。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・二次元コードが12箇所掲載されている(1年生)。 ・3カテゴリーで分けられている(1年生 P7)。	◎	・二次元コードが44箇所掲載されている(1年生)。 ・4カテゴリーで分けられており、それぞれの内容には発展的な要素も含まれ、探求的なねらいをつけた学習活動が構成できる(1年生 P7)。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・学習MAP(巻頭)として、それぞれのカテゴリーにおいて、生徒や学校の実態に応じた内容を選択しやすく、見通しを持った学習ができるよう工夫されている(1年生 P8～P9)。	◎	・学習内容の表示が、学習評価の観点と関連付けられており、見通しをもって身につけられる学力等が分かりやすい(1年生 P8～P9)。 ・二次元コードの読み取りで、ワークシート等が多数用意されており、ふりかえり等が行いやすくなっている。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・2、3年生下の教科書には、音楽の力で人と社会を未来へつなぐというテーマで、題材が掲載されている(2年生下 P66～P67)。	◎	・生活や社会の中にある音等が特集されており、より音や音楽を身近に感じ、音楽の効果的な使われ方等を対話的に考えられるように工夫されている(1年生 P68、P69、2年生上 P91)。
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・創作の題材を扱ったページでは、学習状況に即した内容となっており、より題材を主体的に深めていくことができる(1年生 P38～P41)。	○	・創作の題材が1年生から、段階的に発展しながら掲載されており、主体的に対話的に学びながら取り組んでいくことができるようになっている(1年生 P20、P21)。 ・創作の中で、16分音符が扱われており、生徒がより広がりを持った創作活動に取り組むことができるようになっている(2年生上 P34、P35)。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・世界の音楽やジャンル等が掲載されており、社会や道德等との学習につなげて考えられるように工夫されている(2年生下 P54～P56)。 ・ページ右端に年表が記されており、作曲家等の活躍した時代がわかりやすくなっている。	◎	・生活や社会の中にある音や、著作権を扱った内容等、国語や社会、理科、道德等との学習とつなげて考えられるように工夫されている(1年生 P66、P67)。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量	○	・主要教材を含め、目次においてもカテゴリー分けされており、バランスよく配置されている。	◎	・主要教材を含め、目次においては、順に見やすく配置されており、索引もしやすく工夫されている。共通教材では、学年配列が発達段階を考慮した構成になっていると考えられる。
	(2)教材・資料等の分量	○	・折り込みページもあり、楽器等が写真で見やすく工夫されている。曲にあった情景等が多数掲載されており、イメージを持ちながら歌唱に取り組むことができるようになっている。	○	・解説資料や鑑賞動画等、二次元コードで読み取って閲覧できるコンテンツが豊富にある(1年生 P3)。 ・合唱曲が多数掲載されており、合唱コンクール等での活用も行いやすい(1年生 P72～、2年生上 P76～)。
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	◎	・ユニバーサルデザインフォントを使用し、見やすさや読みやすさが配慮されている。 ・配色にもカラーユニバーサルデザインが取り入れられ、見やすさが配慮されている(1年生 P22、P23 赤とんぼ)。	◎	・ユニバーサルデザインフォントで構成され、細かなところで見やすさや読みやすさが配慮されている(例：1年生 P28、P29「赤とんぼ」の楽譜)。 ・配色にもユニバーサルデザインが取り入れられ、各ページの左帯の使い方が見やすいように工夫されている。
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等			○	・フーガト短調の第1主題の解釈の仕方が良い(2年生上 P36、P37)。

教科名〔 音楽（器楽合奏） 〕

調査項目		教科書の名称 発行者の番号・略称			
		中学器楽 音楽のおくりもの 17・教出		中学生の器楽 27・教芸	
		評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫			◎	・「アンサンブルセミナー」として、音楽的な見方・考え方を働かせて学習するために考えさせたいポイントが例示されている(P16、P17、P54、P55、P80、P81)。 ・音楽の諸要素の説明が簡潔にまとめられている(P9)。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	○	・「音のスケッチ」として、創作教材がいくつか掲載されており、情動的思考力の育成が図られている(P46、P72、P74)。	◎	・二次元コードの中には、ワークシートも掲載されており、自分の思いを表現する活動等にも使いやすい(P55)。 ・事前準備等の動画も掲載されており、予習としても取り組みやすく、学習への意欲や興味関心を高められるよう工夫されている(P29)。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・二次元コード(17箇所)掲載されている。 ・3カテゴリで分けられている。	◎	・二次元コードが40箇所掲載されている。 ・4カテゴリで分けられており、それぞれの内容に発展的な要素も含まれている。 ・巻末にある曲集では、伴奏が掲載されており、グループ等で演奏するなど、学習のバリエーションを広げやすい。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎	・学習MAP(巻頭)として、それぞれのカテゴリにおいて、生徒や学校の実態に応じた内容を選択しやすく、見通しをもった学習ができるように工夫されている(P6、P7)。	◎	・学習内容の表示が、学習評価の観点と関連付けられており、見通しをもって身につけられる学力等が分かりやすい(P8)。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫				
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫			◎	・掲載されている楽器が幅広く、生徒の興味関心を高めやすいと考えられる。 ・楽器の演奏方法について、多角的な写真を用いて、視覚的に分かりやすく配慮がされている(P36)。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫				
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量			○	・打楽器では、たくさんの種類を扱っており、生徒の興味関心が広がりやすくなっている(P63～P67)。
	(2)教材・資料等の分量	○	・リコーダーの楽譜において、上段がソプラノ、下段がアルトの記載となっている(P11、P12、P13、P17)。	◎	・リコーダーの楽譜において、上段がアルト、下段がソプラノの記載となっており、学習者主体(アルト)に分かりやすく工夫されている(P14～P25)。
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	◎	・ユニバーサルデザインフォントを使用し、見やすさや読みやすさが配慮されている。 ・配色にもカラーユニバーサルデザインが取り入れられ、見やすさが配慮されている(「ギターのコード表」P105、P106)。	◎	・ユニバーサルデザインフォントで構成され、細かなところで見やすさや読みやすさに配慮されている(「ギターのコード表」P102、P103)。 ・配色にもユニバーサルデザインが取り入れられ、各ページの左帯の使い方が見やすいように工夫されている。
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等				

美術

教科名〔 美術 〕

		教科書の名称 発行者の番号・略称					
調査項目		美術 1 美術 2・3 9・開隆堂		美術 1 美術 1 資料つくってみよう見よう 美術 2・3 38・光村		美術 1 美術との出会い 美術 2・3 上 学びの実感と深まり 美術 2・3 下 学びの探求と未来 116・日文	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・2、3年生のP94、P95では、『展覧会をつくる』の章を設けて、仲間と対話しながら自身のアイデアを実現していく過程を学ぶ機会が用意されている。	◎	・1年生P14『発想のしかたはさまざま』では、りんごへの様々なアプローチの仕方を架空キャラクターの言葉として示し、自分なりの捉え方を肯定的に感じさせる工夫がされている。また、各所に配置された生徒作品の紹介は、単に作品の図を掲載するだけでなく、『みんなの工夫』として作者の姿と声を同時に掲載し、自分とは違う感じ方も肯定的に捉えられる工夫がされている。	○	・各ページに示されている生徒作品それぞれに、『作者の言葉』が添えられている。そのことで、同年代の感じ方や表し方に触れることはでき、自分自身や自分とは違う他者の感覚と出会うことを入り口にした主体的・対話的な学びへの導入路が用意されている。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫			○	・各所で参考作品の周辺にキャラクターのつぶやきの形式で対話的活動へのヒントが示されている。 ・特に資料P24『発想や構想のために』では様々なシンキングツールを紹介し、発想・構想のヒントを示している。	○	・1年生P61では、発想や構想の手立てとしてグループでのブレインストーミングや、テーマから連想した言葉をつなげていくマッピングの手法を紹介している。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	○	・各項目ごとに二次元コードが記載されており、それを鑑賞しようとするときには必然的にICTの活用を学ぶことができる。2、3年生P108には『これってどう撮るの』との章でも、タブレット端末等を使った撮影について紹介するとともに、1年生P57と併せて著作権についても学べるようになっている。	◎	・デジタルコンテンツが充実しており、特に作者のインタビュー動画は、作者の制作活動を身近に感じられる内容になっている。 ・1年生P42『風神・雷神像』から広がるデジタルコンテンツでは、三十三間堂全体の一部として見せたり、逆に図像細部を拡大して見せたりする多様な動画コンテンツが準備されている。例えば資料P2の「どうやって描く」では、多種多様な描画材それぞれの使用法の紹介に二次元コードが効果的に使われており、生徒一人ひとりが自身のニーズに合わせて必要な知識情報を得られるようになっている。	◎	・各ページに『学びのはじめに』や『資料・動画をみよう』と題された二次元コードがあり、制作への導入動画や資料動画への入り口が示されている。特に動画コンテンツでは、NHKアーカイブの映像を使用するなど、魅力的なコンテンツが準備されている。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・題材ごとに「知・思・鑑」の三つの観点ごとの目標が示されている。 ・傾向の違う多様な作家の作品⇒生徒作品の順⇒SDGsの視点を軸にした作品事例という展開がどの題材でも統一して使われているので、学習の見通しが立てやすい。	○	・多くの題材について、「鑑賞」⇒「表現」の流れが明確に意図して展開されており、生徒にとっては制作に入っていくやすい。 ・「体感ミュージアム」と名付けられているとおり、鑑賞教材が臨場感にこだわってつくられており、実物との出会う意欲や姿勢を育てられるようになっている。	○	・各題材ごとに示されている『学びの目標』は、3つの視点からの目標（造形的な見方を豊かにする視点や技能に関する目標・発想や構想、鑑賞に関する目標・主体的に学習に取り組むための目標）が明示されており、分かりやすい。ほかの『鑑賞の入り口』や『造形的な視点』『表現のヒント』等の提示も生徒には分かりやすい。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・2、3年生P70からのポスター制作の章では、地域の魅力を紹介するポスターづくりの題材を、2、3年生P89では、ねぶた祭等の様子を掲載し、さらに2、3年生P92では伝統工芸の過去と現在を並べて示すことで、地域社会の課題について考える機会をつくっている。	○	・2、3年生の巻頭では、『私たちに問いかける美術』としてSDGsを軸に今日的な社会問題と美術のかかわりを紹介し、そのうえで2、3年生P88『地域の魅力を表すパッケージ』や、2、3年生P92『憩いの場をつくる』において、地域社会とのつながりの中で美術を捉える視点が示されている。	○	・各地域の伝統文化やアートイベント、地域の特色ある美術館等を紹介し、美術的視点から自分たちの地域社会を見直す機会が示されている。
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・1年生の巻頭では『すずめの戸締り』の映像と新海誠さんの言葉が掲載されるなど、生徒の興味から学習が始まるような工夫がされている。	◎	・1年生の巻頭では、三重県出身の写真家、浅田政志さんを起用しながら、身の回りの「うつくしい」をタブレットで撮影する様子が紹介されている。携帯端末を使った写真や動画の撮影は、子どもたちにとって日常的行為でもあり、自発的な美術活動の入り口として魅力的な工夫である。 ・動画コンテンツ等での問いかけも、生徒たちの想像を膨らませる手立てとして有効である。	○	・松任谷由実さん、所ジョージさん等の著名な人物や、ブルーピリオドや進撃の巨人等の生徒たちにとって身近な作品を取り上げ、『美術』をより身近に感じられるように工夫されている。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫			○	・関連するページには、『教科とのつながり』として具体的な問いかけが示されている。さらに、道徳科とのつながりについてはページの隅に項目だけ小さく示される工夫がされている。	○	・充実した動画コンテンツを活用することで地理や歴史分野の学習と効果的につながるよう構成されている。 ・1年生P34の『原始の美に出会う旅』では、ラスコー洞窟壁画を見開きで示しながら、アルタミラ洞窟壁画や埴輪、遮光器土偶等も併せて掲載し、原始の暮らしを思い描かせようとする、明確な意図をもった構成になっている。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量			◎	・1年生P22『その人らしさを捉える』では、メアリー・カサットのパステル画と佐藤忠良のブロンズ像を並置したり、1年生P42からの鑑賞のページでは、三十三間堂の風神・雷神像と尾形光琳らの風神雷神図屏風を並置するなど、絵画分野と彫刻分野をバランスよく配置している。	○	・ほぼすべての単元が「表現」と「鑑賞」という二つの学習活動を意識した構成となっており、「絵や彫刻」と「工芸やデザイン」という二つの分野と併せてバランスよく配置されている。
	(2)教材・資料等の分量	○	・生徒が興味を持つ現在進行形の作家（1年生P8新海誠、P34ひびのこづえ、2、3年生巻頭荒木飛呂彦）や、唯一無二の作家（1年生表紙ガウディ、1年生P28伊藤若冲）らを積極的に扱い、楽しい本に仕上がっている。	○	・限られた紙面の中で、時代や表現分野を代表する作家の作品をおさえながら、多様な生徒の興味に対応できるよう多様な表現の作品が効果的に配置されている。 ・生徒作品の掲載に作者の写真や作者の言葉を多く掲載している。	○	・各単元ごとの参考作品について、芸術家の作品と生徒作品がバランスよく配され、同じような傾向の作品に偏ることもなく、限られた紙面で効果的に多様な生徒のニーズに応えられる工夫がされている。
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・エンボス加工を施した表紙は特徴的で、触覚的にもワクワクする工夫がなされている。 ・P64の色相環では、視覚特性をもつ生徒にも認識しやすい黄色を採用していることや、全体的に彩度ををおさえた色調で印刷されていること、ユニバーサルデザインフォントの採用等、特別な配慮を必要とする児童への配慮において評価できる点は多い。	◎	・タイトル、二次元コード、学習の目標等のページ上でのレイアウトが固定化されており、鑑賞から表現への学習の流れもほぼ固定化されているため、授業者にとっても学習者にとっても、扱いやすい。2、3年生P27～P42までの『日本の絵画を楽しむ』では、艶消しの用紙が採用され、例えば北斎の神奈川沖浪裏等は原寸大で示されるなど、ときに近い見え方ができるよう工夫されている。 ・知識技能に関わる内容が『資料』として別冊にまとめられており、大変使い勝手が良い。	◎	・良質なコート紙を採用し、教科書の軽量化を図っている（日本文：3冊で880g、光村：3冊で940g、開隆堂2冊で840g）。 ・色覚特性をもつ生徒に配慮し、色相環の明彩度表に黄色を採用したり、読みやすいユニバーサルフォントを採用したりしている。
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	○	・各単元の最後にSDGsの視点からの美術的活動の紹介が提示されており、生徒に未来へ向けた視点を意識させる工夫がされている。	○	・2、3年生P76では、廣村正彰の東京オリンピックピクトグラム2020を取り上げ、生徒らが身近に感じる話題を入り口としながら、多文化共生社会の実現という今日的課題の学習へとつなげていく工夫がされている。	○	・2、3年生下P34では、昨年修復が完了したフェルメールの『窓辺で手紙を読む女』や、西本願寺唐門を取り上げながら、「どこまで修復すべきか」と投げかけている。また、P50では「多様性と共同制作」との項でアール・ブリュット（美術の専門的な教育を受けていない人などによる表現活動）を紹介するなど、社会と様々な形で関わる美術の視点を提示している。

保健体育

教科名〔 保健体育 〕

調査項目		教科書の名称 発行者の番号・略称							
		新編 新しい保健体育 2・東書		中学校 保健体育 4・大日本		最新 中学校保健体育 50・大修館		新・中学保健体育 224・学研	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・毎ページに「活用する」「広げる」という学習活動があり、資料を読み取る課題や、その課題についての話し合い等、身につけた知識や学習したことを活用できる工夫がされている。 ・デジタルコンテンツによる動画やシミュレーションが充実しており、課題等がビジュアルで確認できるため、具体的に考える学習につなげられるようになっている。	○	・学習のねらい（目標、評価）が提示されていて、めあてを立てやすい。 ・「やってみよう」「話し合ってみよう」で具体的な活動内容が提示されていて、見通しをもちやすい。 ・「活用して深めよう」で学習内容をより深化できる。 ・章に1つ「学びを生かそう」のページがあり、生徒同士でグループワークをすることができる。	○	・毎ページに「課題をつかむ」「きょうの学習」「学習のまとめ」が記載されているので、「課題をつかむ」を導入として活用し、「きょうの学習」で獲得する知識及び技能を確認し、「学習のまとめ」を活用してふり返るパターンを確立できる。	○	・毎ページに「ウォームアップ」「学習の課題」「学びを生かす」が記載されているので、導入、展開、まとめと授業の展開を構築しやすい。 ・「学習の課題」が【わかる】【考える】に分かれて、獲得する知識や技能、発展して理解する課題等を見通すことができる。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	○	・毎ページ末の「活用する」「広げる」により獲得した知識や技能を活用して、より深く考え、学習したことを自分の生活にあてはめたり、さらに調べたりできるようになっている。	○	・「話し合ってみよう」で、生徒同士の対話的な学習により、言語能力や論理的思考力の育成を図ることができる。 ・「活用して深めよう」では、学習したことをより深められる課題が示されている。	○	・ほとんどの単元で、その時間に学習したことをまとめたり、振り返るための「学習のまとめ」があり、獲得した知識や技能を活用して、より深く学習することができる。	○	・全体的にグループで考えたり、話し合ったりする課題が多く取り入れられており、章末の「探究しようよ!」を活用することで言語能力や論理的思考力の育成を図ることができる。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・毎ページに二次元バーコードがあり、関連するデジタルコンテンツにアクセスできる。 ・その内容が「動画」「シミュレーション」「思考ツール」「資料・図鑑」と大変充実している。 ・関連する他教科のデジタル教科書も閲覧できる。			○	・毎ページに二次元バーコードが2つ記載されており、1つはワークシート、もう1つは4問程度のクイズとなっている。	○	・毎ページに、二次元バーコードから「学びを生かすシート」と振り返りシートを読み込むことができるのと同時に、外部リンクにアクセスできる。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・「学習課題」で問題提起があり、「課題の解決」で知識及び技能を獲得し、「活用する」でさらに深め、「広げる」で実生活に基づく応用能力を養う展開になっている。毎ページとも同じ展開で見通しをもてるようになっている。 ・章末資料には今日の課題が記載され、学びを深めることができる。	○	・学習のねらい（目標、評価）が提示されていて、めあてを立てやすい。 ・「やってみよう」「話し合ってみよう」で具体的な活動内容が提示されていて、見通しをもちやすい。 ・「活用して深めよう」で学習内容をより深化できる。	○	・毎回の授業の流れが「課題をつかむ」→「きょうの学習」→「学習のまとめ」とパターン化され、見通しをもちやすい。 ・章のまとめの問題では単元や章の達成度を確認しやすく、3視点の視点で評価もできる。	○	・「エクササイズ」で知識獲得の確認をして、「学びを生かす」で知識の活用を確認できる。 ・学習の課題の提示が、共有、ジャンプというように2段階で提示されている。 ・学習の見通しを立てやすい。 ・章末資料では「探究しようよ!」やQ&Aで振り返りができる。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫								
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	・調べ学習を行うための資料が多く、デジタルコンテンツが充実しているので、生徒は興味関心をもって学習に向かうことができ、家庭学習にも活用できる。			○	・関連するWebサイトが載っている。		
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・他教科の関連する学習内容が専用マークとともに示してある。 ・二次元バーコードから関連する他教科のデジタル教科書が閲覧できる。						
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量								
	(2)教材・資料等の分量	○	・デジタルコンテンツが充実している。						
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	◎	・ふりがなが振られている漢字が多い。 ・学年別に編集され、学年内では保健編→体育編の順になっている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。本文は明朝体に近い。 ・ICT活用に関する校閲を8名の監修者で行っている。	○	・太字になっている文字が少なすぎず多すぎず、学習しやすくなっている。 ・学年別に編集され、学年内では体育編→保健編の順になっている。ユニバーサルデザインフォント使用になっているが本文は明朝体に近い。 ・道徳教育の視点で監修している。	○	・学年別に編集され、学年内では体育編→保健編の順になっている。 ・ユニバーサルデザインフォント使用になっているが本文は明朝体に近い。	○	・学年別に編集され、学年内では体育編→保健編の順になっている。 ・本文がユニバーサルデザインフォント使用になっている。
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	○	・「共生」「性の多様性」「心の健康」「SDGs」「防災」「交通安全」「ネットリテラシー」「アレルギー」等の今日的課題への対応が豊富に挙げられている。	○	・「多様性」「情報リテラシー」等の現代的諸課題を扱っている。	○	・「性の多様性」「SDGs」「情報リテラシー」等の現代的課題に対応している。	○	・「脱炭素社会」「SDGs」「共生」「ユニバーサルデザイン」「情報リテラシー」等の現代的課題に対応している。

技術・家庭

中学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表
◎特に優れている
教科名 [技術・家庭（技術分野）]

○優れている

		教科書の名称 発行者の番号・略称					
調査項目		新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology 2・東書		新技術・家庭 明日を創造する 技術分野 6・教図		技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて 9・開隆堂	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・技術分野では、ガイダンスの中で、問題解決のプロセスを考える上で有効な思考ツールや対話の方法を取り上げられており、主体的・対話的な活動をつくり出す工夫がされている（「教科書の構成と使い方」P2、P3、「デジタルコンテンツの活用」P4、P5、「技術分野の学習方法」P6、P7）。 ・「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「まとめよう」といった学習課題が数多く用意されており、生徒が取り組みやすく、主体的・対話的で深い学びにつながる工夫がされている。			○	・各章の問題解決の手順の中で実習例を多く示し、同じ流れで表記されている。 ・既存の製品から技術の見方・考え方で読み解くことができるようになっており、興味がわく。 ・端的に要点がまとめられており、各分野の内容やポイントを把握しやすいつくりになっている。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	◎	・基本のページの「振り返ろう」や各章末の「これからの○○の技術について考えよう」や「学習のまとめ」で記述でまとめたりする問題が取り上げられている。 ・デジタル教材の中に問題解決カードというワークシートが各分野の各単元に用意されており、自分の考えをまとめたり、深く内容を考えるのに役立つ教材となっている。			○	・技術の見方・考え方で既存の製品を読み解くことができるようになっており、考えを記述する問題が多い。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・二次元コードからのデジタル教材の中に、動画やワークシート、シンキングツール等、8種類のコンテンツがあり、直接書き込んで活用できる機能がついている。 ・ICTを活用した学習活動の充実につながりやすい工夫がされている。			◎	・デジタルコンテンツが分野ごとに見やすくまとめられており、操作性もとても良い。 ・二次元コードからのデジタル教材の中に映像教材が多く用意されており、個で学ぶときの導入にも、復習にも活用しやすい。
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎	・基本のページと学習を深めるためのページやコラムが分けられており、基本のページでは目標と学習課題が示されており、最後にまとめてみようの項目があり、学習の見通しを立てたり、学習の振り返りがしやすくなっている。 ・二次元コードからのデジタル教材の中に「TECH Lab」という製作の際に活用できる各作業の解説付きの短時間動画が数多く収録されており、作業の振り返りや予習がしやすくなっている。	○	・目標と学習課題が示され、最後にまとめてみようの項目があり、学習を見通したり、振り返ったりすることがしやすい。	◎	・各単元ごとのページに目標と学習課題が示されており、最後に問題解決の評価・改善があり、学習の見通しをもったり、振り返ったりがしやすい。 ・二次元コードからのデジタル教材の中に製作の際に活用できる各作業の解説付きの短時間動画が収録されており、作業の振り返りや予習がしやすい。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・実際に学習内容と関連した仕事に携わる人のインタビューやどのように実生活に生かされているかが分かりやすく掲載されている（「すごいぞ！技術」P86、P87、P134、P135、P196、P197、P264、P265）。	◎	・本誌に「技ビト」「先輩に聞いてみよう」という、実際にその分野に精通した人や仕事に携わっている人のページが用意され、実生活とリンクさせたり、興味を持ちやすくなっていたりする（「先輩に聞いてみよう」P61、P163 「技ビト」P64、P65、P107 「先輩からのメッセージ」P250）。	◎	・各章末のインタビューは、キャリア学習的な視点を取り込まれていて、これまでの技術に焦点を当てているだけでなく面白い（「Interview」P104、P105、P156、P157、P210、P211、P284、285）。
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	・最初のガイダンスのところで「技術の見方・考え方」「技術による問題解決」といった、PDCAサイクル等の技術科で学ぶ基本的考え方を学ぶ構成になっている。 ・各編のはじめに「技術の見方・考え方」「技術の最適化」を考える構成になっている。 ・本誌ページの下方に「深めよう」や「振り返ろう」という項目が用意されており、興味を持った生徒が主体的に深い学びに繋げられるような工夫がある。 ・各分野の最後の「未来のTechnology」という見出しで用意された課題が未来を想像する面白い内容となっている（P83、P131、P193、P261）。			◎	・各ページの右上に工具の写真と名称が掲載されている各分野の学習課題（ワークシート等）がデジタル教材として用意されているため、学習の振り返りがしやすい構成となっている。 ・「材料と加工の技術の見方・考え方で既存の製品を読み解こう」が各章にあり、技術の見方・考え方を通しての興味をそそる切り口になっている（P48、P49、P126、P127、P186、P187、P246、P247）。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	◎	・二次元コードからのデジタル教材の中に、小学校理科・数学・理科・道徳で学んだことやこれから学ぶことが実際の教科書のページとして表示され、振り返り等がしやすい（P29、P139、P211、P213、P239）。			○	・章のはじめにまとめて記載されている技術科の各分野が他教科や小学校の履修内容のどれと関連しているかを表記したページがある（P7、P27、P107、P159、P213）。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量						
	(2)教材・資料等の分量	◎	・基本のページ以外に学習を深めるためのページが充実しておりICT資料も含め豊富である本誌としても、デジタル教材として用意されている映像等、情報量が圧倒的に多い。 ・各作業のポイントや注意点等、細かなアドバイスが掲載されており、深い学びにつなげられる構成となっている。			○	・本誌自体の情報量は読みやすい構成になっているため、やや少ないが、デジタル教材として用意された映像等で分かりやすくまとめられている。
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等	○	・基本と学習を深めるページが分けられているので、実習時に扱いやすい。 ・デジタルコンテンツにダークモードが用意されており、目の負担軽減や視覚過敏の生徒に対しても配慮されている。	◎	・カラー印刷の色合いや濃淡がはっきりしている。文字や図の大きさが大きく鮮明でとても読みやすい構成になっている。 ・問題解決学習前に、実習や見学の安全を確認するページがある（P34、P35、P84、P85、P136、P137、P192、P193）。	○	・安全についてしっかり取り上げられている。 ・全体的に文字が大きく、見出しや図表も読みやすいように工夫されているため、各ページの要点となる内容が頭に入りやすい（P82～P89）。
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等						

		教科書の名称 発行者の番号・略称					
調査項目		新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して2・東書		新技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する 6・教図		技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ・9・開隆堂	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	◎	・学習課題が提示されている。 ・自ら考えやすいようなキャラクターの吹き出しの内容がある（P62、P177）。	○	・分かりやすい問題の提示がある（「みつめてみよう」P50）。	○	・内容が取り組みやすく図がわかりやすい。 ・これまでワークで補っていた内容が入っている。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	◎	・重要単語や難解な漢字が並ぶ単語について、注釈や丁寧につけられている。	◎	・重要単語や難解な漢字が並ぶ単語について、注釈や丁寧につけられている。	◎	・重要単語や難解な漢字が並ぶ単語について、注釈や丁寧につけられている。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・ほぼすべてのページに二次元コードがあり、動画やクイズ、資料等が豊富である。				
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・巻頭に学習の見通しについて触れられるとともに、単元の終わりには「学習のまとめ」があり、簡単に復習することができる。	○	・学習の振り返りがあり、簡単にまとめることができる。	○	・巻頭に学習の見通しについて触れられるとともに、単元の終わりに「学習のまとめ」があり、簡単に復習することができる。
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫	○	・家族との会話を吹き出しで表しており、生徒がイメージしやすい工夫がされている（P255、P261）。	○	・家族との会話を創造させるロールプレイングが組み込まれている（P24）。	○	・家族との会話を創造させるロールプレイングが組み込まれている（P35）。
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	◎	・二次元コードの資料が見やすく、P4にあるように、コンテンツの種類が「思考ツール」「クイズ」「他教科リンク」等、8種類と豊富になっている。 ・イラストや写真、図が鮮明で生徒が自ら取り組みたくなるような工夫がある。	◎	・例や参考の図等が見やすく、分かりやすい。 ・写真が多く掲載されている。	◎	・実寸大の幼児の手形などがあり、リアルな資料が多く生徒の興味がわきやすく、生徒にとって興味の引くような挿絵がある（P42、P43）。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫	○	・教科書に関連する教科と分野が記載されている。	○	・教科書に関連する教科と分野が記載されている。	○	・教科書に関連する教科と分野が記載されている。
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量						
	(2)教材・資料等の分量	◎	・実習例や参考資料等の資料が豊富で内容が充実している（「食品群別摂取量の目安」P40～P47、「ハンバーグ」P84、P85、「日本各地の郷土料理」P102、P103）。			○	・子どもの興味をひく資料が豊富である。
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等						
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等					◎	・現在活躍している人のインタビューが動画で見られるなど、現代社会の課題が子どもたちに伝わりやすい。

英語

中学校用教科用図書調査実施項目結果一覧表 ◎特に優れている ○優れている

教科名〔 英語 〕

調査項目		NEW HORIZON 2・東書		SUN SHINE 9・開隆堂		NEW CROWN 15・三省堂		ONE WORLD 17・教出		Here We Go 38・光村		BLUE SKY 61・啓林館	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・LINEやEメール等、現代のコミュニケーションツールを意識して、教材が作られている。 ・SDGsに関連付けてテーマが決められており、課題を解決するために自分たちができることを考えさせる内容となっている。	○	・SDGsに関連付けて、テーマが決められている。	◎	・UnitごとのそれぞれのPartにおいて、Scene1では導入→文法のおさえ→練習の流れが統一されている。 ・挿絵を見ながらリスニングで始まる導入なので、言語材料の使用場面も分かりやすい。			○	・SDGsに関連付けて、テーマが決められている。		
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫	◎	・1年生の時など、毎回の単元の初めに言語活動が組み込まれている。それぞれの単元の終わりで自分の意見を考えさせるところがあり、更にUnit activityでは、英語で考えをまとめて言ったり書いたりできる活動が用意されている。それ以降も適宜組み込まれている。 ・アウトプット活動が適宜ある。 ・毎回のUnitで①概要理解②語彙理解③思考表現の順で読解していくラウンドリーディングの仕組みを取り入れている。	◎	・3年生まで、毎回の単元の初めに言語活動が組み込まれている。 ・多くの単元でretellingの活動が組み込まれている。 ・アウトプット活動が適宜ある。 ・ピクチャーカードありで新文法に触れてから、聞く→話す→読み→書くの順に構成されている。	◎	・Small Talk (Plus) の設定が多く、話す活動が多くとれる。特に (Plus) の方では会話を継続させる工夫がある。 ・リーディングも、概要理解から詳細理解へとスモールステップで問題が作られている。 ・各Unitの最後に自分の考えをまとめる活動がある。			◎	・毎回のパートごとに、言語活動が組み込まれている。 ・巻末にretellingで使える教材が用意されている。 ・アウトプット活動が適宜ある。 ・単元が聞く読む→話す→書くの順で構成されている。	○	・Enjoy Chattingで本文の内容と関係するような内容で即興で対話する工夫があり、本文の前でも後でも使うことができる。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・マスク機能、日本語訳、文法動画がある。	○	・文法動画がある。					○	・文法動画がある。		
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	◎	・単元目標と、Unitの最後にどのような言語活動を行うのが分かりやすく書かれている。										
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫												
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・LINEやEメール等、現代のコミュニケーション場面を意識して、教材が作られている。	○	・バジャマディなど、ユニークなアメリカの文化を紹介している。 ・ワンピースやスパイファミリー等、生徒に人気のあるアニメを取り上げている。	◎	・Goal Activityの設定が工夫されている。 ・③Unit7では、動画を見てアイデアを整理するなど、いままでにない形の問題提起となっている。			◎	・生徒の3年間の出来事に合わせて、単元が組まれている。 ・絵の人物の表情が豊かだったり、背景があるので、場面をイメージしやすい。		
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫												
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量											○	・各UnitのPart1～Part3までは見開き左のページが本文で、右のページに聞く・話す・書くの活動が設定されており、4技能すべての観点に触れた内容となっている。
	(2)教材・資料等の分量	○	・文法のまとめが丁寧である。 ・題材に合った写真が多く使われており、様々な国の文化や景色等、実際のものを見ることができる。	◎	・文法のまとめが大変丁寧である。	○	・各UnitのPart3では、マンガスタイルを使い、対話文のイメージがつかみやすいように工夫されている。 ・ALTとのTT用のアクティビティカードが指導書についている。			○	・巻末にretelling教材がある。		
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等			○	・英語が苦手な子も興味を持てる導入が毎回の単元の始めにある。								
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	◎	・小中の橋渡しに力を入れている。 ・Sounds and lettersでは、文字と音の結びつきをUnit5の終わりまで、何回にも分けて丁寧にしている。そこで出てきた単語がUnitで何回も出ており、定着を促している。 ・Be動詞と一般動詞を両方初めの方に習うことで、会話の幅が広がり、小学校の内容も想起しやすい。	○	・リスニング問題がスモールステップになっている。	○	・Be動詞と一般動詞を両方初めの方に習うことで、会話の幅が広がり、小学校の内容も想起しやすい。						

道德

教科名〔 特別の教科 道徳 〕

調査項目		教科書の名称 発行者の番号・略称													
		新編 新しい道徳 2・東書		中学道徳 とびだそう未来へ 17・教出		中学道徳 きみがいちばんひかるとき 38・光村		中学道徳 あすを生きる 116・日文		新版 中学生の道徳 明日への扉 224・学研		中学生の道徳 232・あか図		生き方から学ぶ・生き方を見つめる ・生き方を創造する 233・日科	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1)各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	○	・中学生の実生活の中で起こりうる課題を多数扱い、発達段階に応じた課題解決のきっかけとすることができる。	◎	・教材を「完結」させたものにせず、その後を推察したり、自分自身と重ねて考えるきっかけとなるものが多数あり、多様な指導が可能になっている。	◎	・発問のほかに、「見方を変えて」という他の発問があることで、多面的・多角的に考えられるようになっている。	◎	・課題が学年相応で、問題提起も明確で分かりやすい。 ・巻頭に学び方のミニ教材があり、話し合いの工夫例が具体的に示されており生徒が主体的に見通しをもって学習できるようになっている。	◎	・各学年で「クローズアップ」という特設ページが多く掲載されており、教材に関連した情報や違った視点からの情報があり、多面的・多角的に考えを深めることができる。	◎	・従来の生き方を見つめる教材、感動教材に加え、多様な現代的課題を扱う教材が充実しており、生徒がそれぞれの考え方を通して思考を深めていくことができる。	◎	・日常生活で起こる葛藤をそのまま教材にしているものがあり、生徒の考えや議論が深まりやすいようになっている。
	(2)言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫					○	・論理的に組み立てられた記述例が豊富で、考えを言語化する手引きが充実している。							○	・ウェルビーイングカードを使うと自分の考えを表出しやすく、その理由を文書化するという手法が取れるようになっている。
	(3)情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫	◎	・二次元コードから読み取れる情報にすべての教材の朗読音声とワークシートのほか、映像や関連Webサイト等のデジタルコンテンツが用意されている。 ・朗読音声には速度調節機能がついている。					◎	・二次元コードから読み取る動画コンテンツが充実しており、心情メーターやシンキングツールを使って多様な学習ができるようになっている。 ・学習支援機能が充実している。			○	・教材によっては二次元コードからデジタルコンテンツを読み取ることができ、教材に登場する人物の話の聞き、生徒の多面的・多角的な考えを深めることができる。		
	(4)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫	○	・教科書内に質問項目がまとめられ、自分の考えを直接書き込むことができ、話し合いや事後の振り返りに役立てることができる。	◎	・各教材にサブタイトルがあり、「めあて」として活用できる。 ・教科書内に質問項目がまとめられ、自分の考えを直接書き込むことができる。	○	・目次で1年間の見通しをはっきりと確認でき、巻末で振り返りもできる。	◎	・道徳ノートの発問欄がすべての教材で空欄となり、活用の自由度が増した。 ・自由欄が設けられ、振り返りを言語化して書いたり、保護者や教員がコメントを記入したりできるようになっている。						
	(5)各教科の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫			○	・様々な考えを出し合う問題解決的な学習や、「やってみよう」では生徒がその立場を演じることで多角的な視点をもつことができる体験的な学習ができる。			◎	・「学びを深めよう」では問題解決的な学習や体験的な学習の資料が掲載され、生徒が学びの見通しをもって、思考を深めることができる。						
	(6)生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫	○	・「plus」では教材に関連したテーマを多数取り上げ、生徒が自由に読むことでさらに考えを深めたり、広げたりすることができる。					◎	・中学生の日常で起こりうる身近な課題が多く、具体的な問題提起がされている。 ・「視野を広げて」では知識を深めるものとスキルを身につけるものが掲載されている。	◎	・生徒に伝わりやすいように、文章だけでなく、漫画教材が多くある。 ・学習のガイドが少ないので、生徒が自発的に課題を考えられる。	○	・MY PLUSでは、生徒にとって日常的で身近な課題を取り上げ、生徒がいろいろな立場で対話を通して思考を深められるようになっている。問題解決的な学習や体験的な学習にも活用できる。	○	・導入で4コマ漫画を使用したり、漫画教材を取り入れたりすることで生徒が多角的に学べるようになっている。
	(7)他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫														
2 使用上の便宜	(1)内容別配当の分量							◎	・「いじめと向き合う」教材が1年生に3か所、2・3年生に2か所、長期休み明けの時期に複数配置されている。 ・いじめの4層構造にも触れている。	○	・命の尊さを最重点テーマとして、各学年3本ずつ教材を配置して、「いのちの教育」に関連する教材も多数掲載されている。	◎	・喫煙の課題である「いじめ問題」「情報モラル」等の学習を重点的に深められるように、学年ごとに連続して複数の教材が配置されている。また、いじめの4層構造にも触れている。		
	(2)教材・資料等の分量			○	・内容解説資料の内容が充実しており、授業の展開の参考になる。										
	(3)内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等														
3 その他	今日的課題への配慮や各種目において調査を必要とする事項等	○	・全学年で探求の対話「p4c」を掲載している。											○	・ウェルビーイングに関する教材が掲載されているだけでなく、ウェルビーイングカードを各教材と合わせて使用できるようになっている。

採択地区別中学校用教科用図書採択状況一覧（令和３年度から使用）

（採択替えがあったところのみ併記。上段が新採択、下段が旧採択）

採択地区	種目	国語	書写	社会			地図	数学	理科	音楽		美術	保健体育	技術・家庭		英語	徳道
				地理	歴史	公民				一般	器楽合奏			技術	家庭		
北勢第1		光村	光村	帝国	東書	日文	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	光村	日文
		東書	日文													三省堂	
北勢第2		光村	東書	帝国	東書	日文	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	大修館	開隆堂	開隆堂	光村	教出
														東書	東書	三省堂	
北勢第3		三省堂	光村	帝国	東書	東書	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	光村	学研	教図	教図	東書	日文
			東書	東書	日文	学図								東書	東書	教出	
津		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書	日文
		東書			日文												
松阪		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	東書
					日文							開隆堂		開隆堂	開隆堂		
伊勢・度会		光村	東書	東書	日文	東書	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	光村	学研	東書	東書	啓林館	光村
								東書					東書			三省堂	
鳥羽・志摩		光村	東書	東書	東書	東書	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	三省堂	東書
												光村	大日本				
伊賀		三省堂	光村	帝国	日文	日文	帝国	数研	啓林館	教芸	教芸	光村	学研	開隆堂	開隆堂	東書	教出
			東書									日文		東書	東書		東書
尾鷲		東書	光村	帝国	日文	日文	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	三省堂	東書
		三省堂			東書	東書		東書									
熊野		東書	教出	帝国	日文	日文	帝国	啓林館	啓林館	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	三省堂	東書

※東書…東京書籍、大日本…大日本図書、教図…教育図書、開隆堂…開隆堂出版、学図…学校図書、三省堂…三省堂、教出…教育出版、教芸…教育芸術社、光村…光村図書出版、帝国…帝国書院、大修館…大修館書店、啓林館…新興出版社啓林館、数研…数研出版、日文…日本文教出版、学研…学研教育みらい

採択地区別小学校用教科用図書採択状況一覧（令和６年度から使用）

上段：直近の採択
下段：旧採択（直近の採択と発行者が異なる場合）

採択地区	国語	書写	社会	地理	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	保健	英語	道徳
北勢第1	光村	教出	日文	帝国	東書	東書	啓林館	教芸	開隆堂	東書	光文	光村	教出
北勢第2	東書	光村				啓林館			日文			東書	
北勢第3	光村	東書	日文	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	開隆堂	東書	東書	光村	光文
津	光村	東書	日文	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	日文	開隆堂	東書	光村	
松阪	光村	東書	日文	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	日文	東書	学研	東書	日文
伊勢・度会	光村 東書	光村	日文	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	開隆堂	東書	大修館	開隆堂	日文
鳥羽・志摩	光村	東書	日文	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	日文	開隆堂	東書	東書	光村
伊賀	光村	東書	日文	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	日文	開隆堂	東書	光村	日文
尾鷲	光村	東書	教出	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	学研	東書	日文
熊野	光村	光村	日文	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	日文	東書	東書	東書	東書

※ 東書…東京書籍、大日本…大日本図書、開隆堂…開隆堂出版、学図…学校図書、教出…教育出版、教芸…教育芸術社、光村…光村図書出版、帝国…帝国書院、啓林館…新興出版社啓林館、日文…日本文教出版、光文…光文書院、学研…Gakken